

動物用医薬品

要指示医薬品 指定医薬品



2026年3月改訂

貯法	室温保存			
	S	M	L	LL
承認指令書番号	6動薬第865号	6動薬第866号	6動薬第867号	6動薬第868号
販売開始	2014年1月			

【成分及び分量】

1錠中にそれぞれ次の成分を含有

	ミルベマイシンオキシム	プラジクアンテル
インターセプターSチュアブルS	2.3mg	22.8mg
インターセプターSチュアブルM	5.75mg	57mg
インターセプターSチュアブルL	11.5mg	114mg
インターセプターSチュアブルLL	23mg	228mg

【効能又は効果】

犬： 犬糸状虫の寄生予防並びに犬回虫、犬鉤虫、犬鞭虫、瓜実条虫及び多包条虫の駆除

【用法及び用量】

体重1kg当たりミルベマイシンオキシムとして0.5mg、プラジクアンテルとして5mgを基準量として1回、食餌と同時に又は食後に経口投与する。犬糸状虫の寄生予防を目的とする場合は、蚊の発生から蚊の発生終息1ヵ月後までの期間、毎月1回、1ヵ月間隔で投与する。

体重別には、次の投与量による。

体重	投与量
1.0kg以上4.5kg以下	インターセプターSチュアブルSを1個
4.5kgを超え11kg以下	インターセプターSチュアブルMを1個
11kgを超え22kg以下	インターセプターSチュアブルLを1個
22kgを超え45kg以下	インターセプターSチュアブルLLを1個
45kgを越える場合、上記の錠剤を適切に組み合わせる。	

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

(犬に関する注意)

- ・本剤は犬以外の動物に使用しないこと。
- ・本剤は犬によく噛ませるようにして与えること。普段から食物を噛まずに飲み込む傾向のある犬には、本剤を細かく割ってその全てを与えること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること
(使用者に対する注意)

- ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けること。
- ・本剤の有効成分は、有機溶剤等に溶解した場合等、溶液の状態においては皮膚から吸収されることが知られている。分割時に皮膚に付着した場合には、直ちに石けんで洗い流すこと。
- ・多包条虫は人獣共通感染症であるので、犬で多包条虫感染が確認された場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(犬に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

①警告

- ・エキノコックス症については、飼い主の安全の確保及び感染拡大防止のための対応を飼い主に指導するべきである。詳しくは厚生労働省ウェブサイト（犬のエキノコックス症対策ガイドライン2004—人のエキノコックス症予防のために—）を参照のこと。

②対象動物の使用制限

- ・本剤は、4週齢未満の犬には投与しないこと。
- ・本剤は体重1.0kg未満の犬には使用しないこと。
- ・本剤に対し過敏症の犬には使用しないこと。

③重要な基本的注意

- ・本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- ・犬糸状虫感染犬に投与する場合は、成虫及びマイクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い、陰転してから実施すること。
- ・ミルベマイシンオキシムの試験において、コリー犬及びその系統の犬種は他の犬種に比べ、安全域が狭いことが示されていることから、これらの犬種に対しては、用法・用量を厳密に守ること。
- ・本剤投与前に必ず血液検査を行い、マイクロフィラリアがないことを確認した後、投薬を行うこと。
- ・重度に衰弱した犬、重度の腎・肝障害の犬に対する安全性は確立されていない。これらの動物に対しての投与は推奨されないが、やむを得ず使用する場合には、本剤投与により対象動物の健康が維持されるなどベネフィットが得られるかどうか獣医師が慎重に判断した上で投与すること。
- ・妊娠中及び授乳中の雌犬、又は繁殖期の雄犬に対する反復投与と安全性試験により本剤の安全性を確認しているが、一般的にこれらの動物に対する薬剤の投与はリスクを伴うので、母犬の健康維持が優先される場合など本剤投与のリスクとベネフィットを考慮し、投与の可否を獣医師が適切に判断した上で投与すること。
- ・本剤の再投与の必要性の判断は投与後の検査の結果に基づいて行うこと。犬の生活環境により寄生虫の再感染が懸念される場合には、定期的な再検査及び再投与を推奨する。
- ・本剤による条虫類駆除の確認の際、体節がバラバラになり半透明の状態で排出されるので注意深く観察するよう飼い主に指導すること。

④相互作用

- ・マクロライド系化合物、他の犬糸状虫予防薬、並びに犬回虫、犬鞭虫、犬鉤虫、瓜実条虫及び多包条虫の駆除薬剤と本剤の併用については安全性が確認されていないことから併用しないこと。

⑤副作用

- ・本剤の投与により、ときに一過性の嗜眠がみられることがある。
- ・犬糸状虫感染犬に投与した場合、元気消失、食欲不振、嘔吐、呼吸速迫、大静脈症候群等の症状が現れることがあるとの報告がある。
- ・海外での定期安全性報告において、非常に稀な頻度で、嗜眠、嘔吐、過流涎、下痢、振戦、不活発及び食欲低下が報告されている。
- ・海外で実施した臨床用量1,3,5倍量7週間又は13週間連続経口投与安全性試験において、流涎、嘔吐、運動失調、不活発、振戦が報告されている。

⑥その他の注意

- ・エキノコックス症は人獣共通感染症であり、ヒトにおいては感染症法第4類感染症に指定されている。獣医師は発見後、直ちに保健所へ届け出ること。

【薬理学的情報等】

(薬効薬理)

ミルベマイシンオキシムは、他のアベルメクチン系駆虫薬と同様、線虫や節足動物に非痙攣性の麻痺を誘発する。作用機序としては、膜貫通性のグルタミン酸開口性クロールイオンチャンネルに作用してクロールイオンの膜透過性を増加させ、神経細胞や筋肉細胞の膜を過分極させることにより寄生虫を死に至らしめると考えられている。

一方、ブラジクアンテルは、ピラジノイソキノリンのラセミ誘導体であり、種々の条虫や吸虫に有効な駆虫薬であり、寄生虫の外被(被膜)に作用し、カルシウムイオンの流入を促進して虫体筋肉の収縮、痙攣性麻痺を含めた種々の二次的な生化学的反応を起こすことにより寄生虫を死に至らしめると考えられている。

(臨床成績)

1. 犬糸状虫予防効果

犬糸状虫未感染症例224頭を対象とし、犬体重1kg当たりミルベマイシンオキシム0.5mg、ブラジクアンテル5mgを基準量として、蚊の発生時期の1ヵ月後から蚊の発生終了時期の1ヵ月後まで1ヵ月ごとに経口投与し、最終投与後6ヵ月目にミクロフィラリア検査及び犬糸状虫抗原検査を実施した。その結果、100%の感染予防効果が確認された。

2. 消化管内寄生虫駆除効果

犬回虫・犬鉤虫・犬鞭虫・瓜実条虫の何れか単独又は混合寄生が確認されている症例を対象とし、犬体重1kg当たりミルベマイシンオキシム0.5mg、ブラジクアンテル5mgを基準量として経口投与した結果、犬回虫については100% (66/66症例)、犬鉤虫については88% (22/25症例)、犬鞭虫については92.5% (37/40症例)、瓜実条虫については94.4% (34/36症例)の駆除効果が確認された。

3. 安全性

犬糸状虫感染予防の安全性解析対象249症例中、20症例(8.0%)で有害事象が認められ、うち1症例は本剤投与との関連性が否定できない嘔吐を認めた。その他の19症例についてはいずれも本剤投与との因果関係が認められなかった。また消化管内寄生虫駆除の安全性解析対象112症例中、1症例(0.9%)で有害事象(投与後の嗜眠)が認められたが、本剤との因果関係は不明であった。

(安全性)

1. 10週齢幼若犬における13週間反復経口投与安全性試験

9~10週齢のビーグル犬に、本剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25.1mg/kg)及びその3、5倍量を、2週間に1回、合計13週間反復経口投与した。その結果、3、5倍量投与群においては、本剤投与に起因すると考えられる一過性の流涎、嘔吐、運動失調及び活動低下の症状が認められたが、1倍量群においては、本剤投与に起因する異常は認められず、臨床適用量における本剤の安全性が確認された。

2. 6週齢幼若犬における7週間反復経口投与安全性試験

6週齢のビーグル犬に、本剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25.1mg/kg)及びその3、5倍量を、2週間に1回、合計7週間反復経口投与した。その結果、本剤投与に起因すると考えられる活動低下(1~5倍量群)、運動失調、振戦、流涎(主に3~5倍量群)が認められたが、いずれも軽度かつ一過性であった。

3. 妊娠中及び授乳中の犬に対する反復経口投与安全性試験

妊娠中及び授乳中の雌ビーグル犬に、ミルベマイシンオキシム及びブラジクアンテル配合剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25mg/kg)を1週間に1回、交配前(最大10週間)、妊娠期(10週間)並びに授乳期(10週間)を通じて反復経口投与し、母犬及びその産子に対する安全性を確認した。その結果、母犬の臨床症状並びに繁殖成績に被験薬投与に起因する異常は認められなかった。また産子においても、臨床症状や産子数に被験薬投与に起因する異常は認められなかった。従って、妊娠授乳期における本剤の安全性が確認された。

4. 雄犬の繁殖学的機能に対する反復経口投与安全性試験

雄ビーグル犬に対し、ミルベマイシンオキシム及びブラジクアンテル配合剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25mg/kg)を1週間に1回、合計9回反復経口投与し、繁殖学的影響について確認した。その結果、投薬期間中の臨床所見に異常は認められず、精液性状、精子運動性、生存精子数及び生存率に異常は認められなかった。従って、繁殖期の雄犬における本剤の安全性が確認された。

【製品情報お問い合わせ先】

エランコジャパン株式会社 製品お問い合わせ窓口

〒107-0052 東京都港区赤坂四丁目15番1号

TEL: 0120-162-419

月~金/9時~12時、13時~17時


(祝祭日及び会社休業日を除く)

製造販売業者(輸入発売元)

エランコジャパン株式会社

東京都港区赤坂四丁目15番1号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。

インターセプター、Elanco 及び  : エランコ又はその関連会社の商標です。© 2026 Elanco or its affiliates

ISC15-0326b